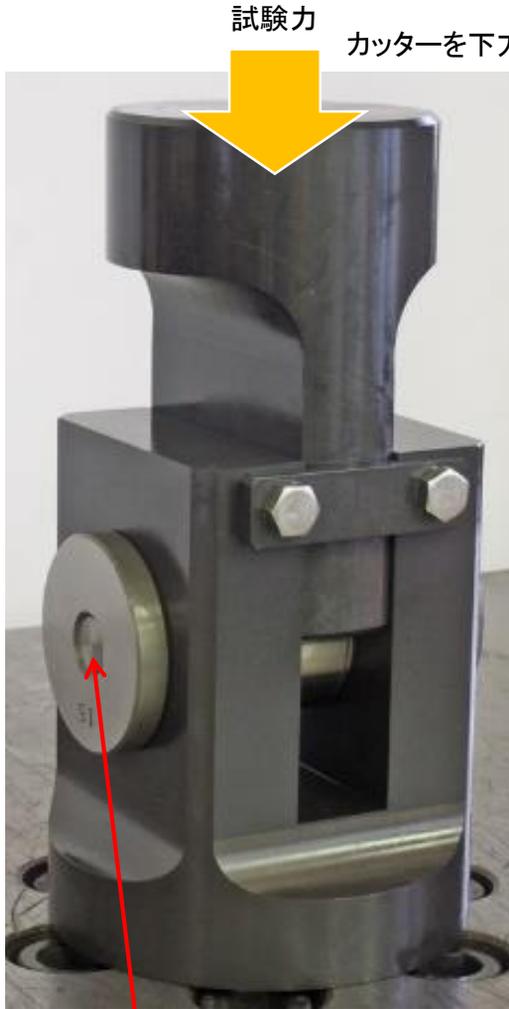
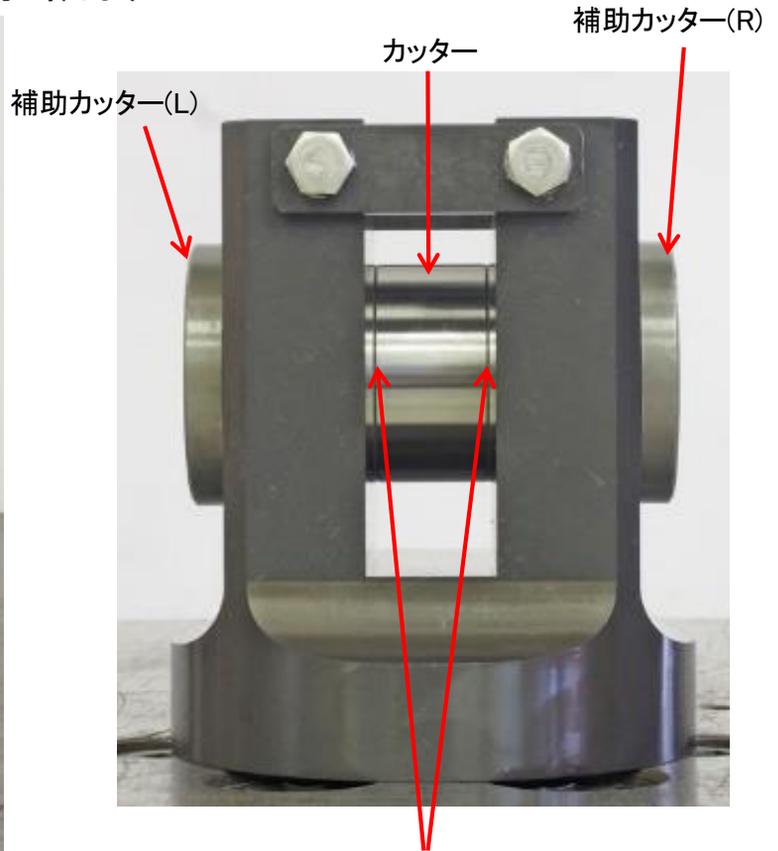


【せん断試験ジグ(2面せん断用)】

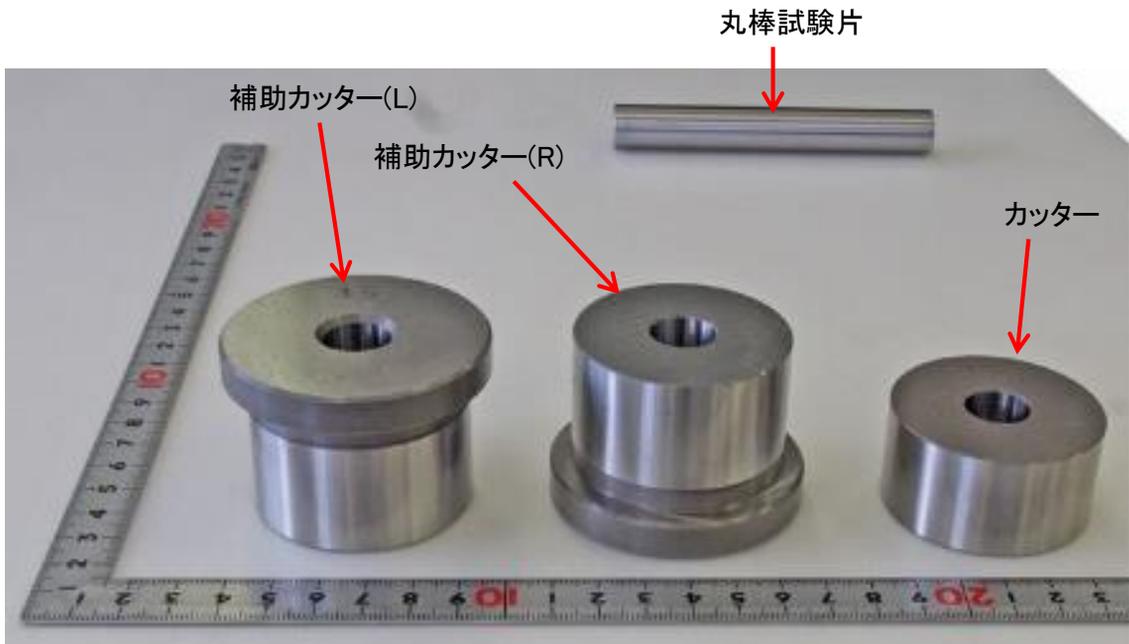
金属の丸棒試験片をリング状のカッターでせん断させて、せん断強さを調べるための試験ジグです。カッターの両サイドで試験片をせん断させる「2面せん断法」を採用したものです。



中央の穴に丸棒試験片を挿入

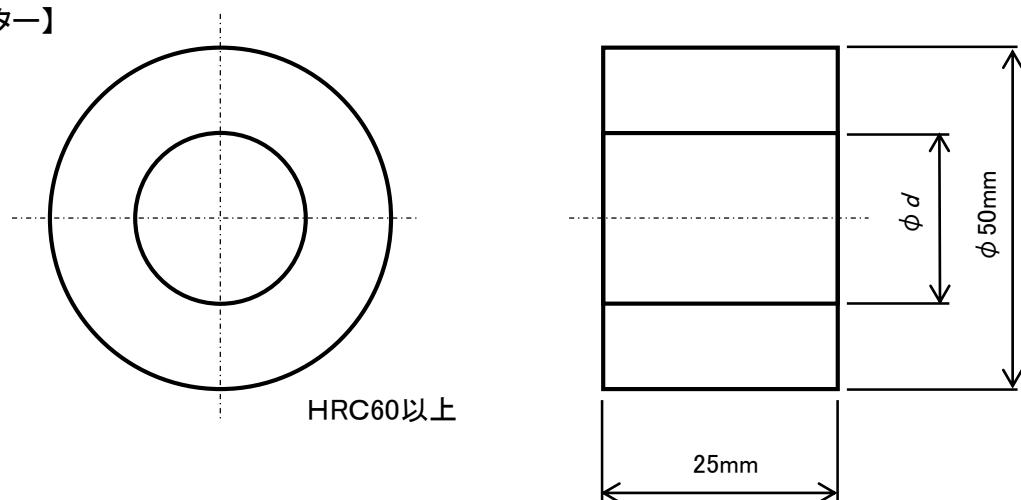


カッターと補助カッターは接しています。その境界面がせん断面になります(左右2面あります)。

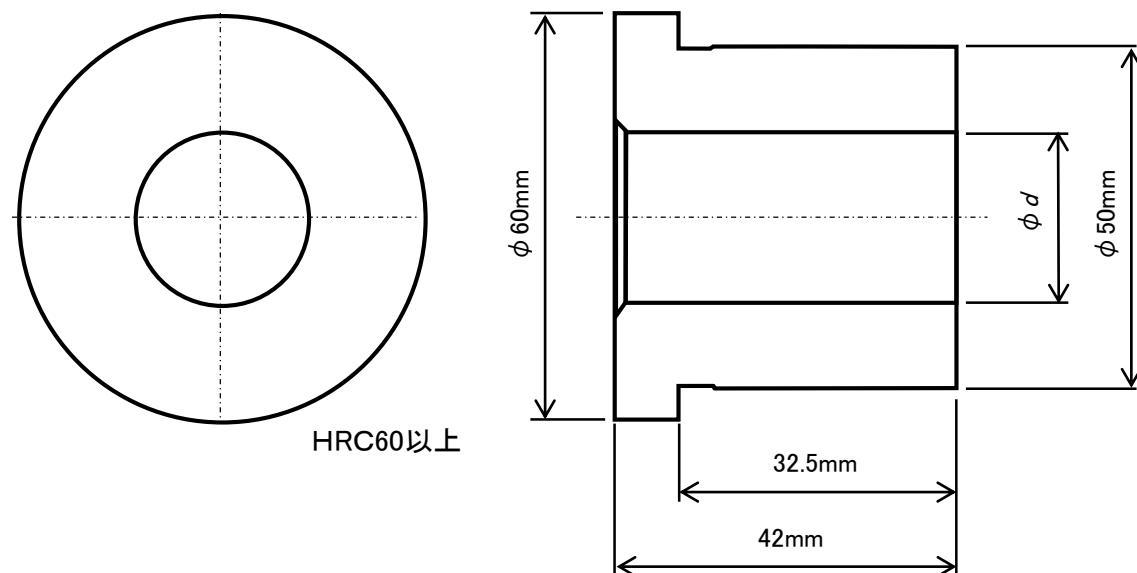


【保有している cutter 等の寸法とそれに適合する試験片の寸法】

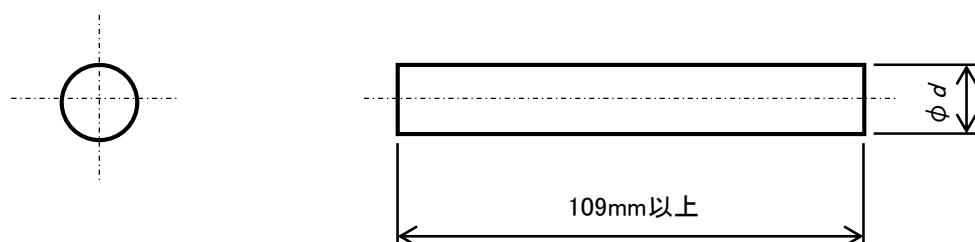
【Cutter】



【補助Cutter (L) (R)】



【試験片】



弊所では、試験片直径(φd) φ15mm, φ20mm, φ25mmに対応するCutterおよび補助Cutterを保有しています。

試験片のみ製作して弊所保有の試験ジグを用いて試験することをお考えの方は、以下の公差情報をご参照ください。

穴と軸(試験片直径)の公差等級

φd	φ15	φ20	φ25
穴の公差等級 H7	+0.018 -0	+0.021 -0	+0.021 -0
軸の公差等級 h7	+0 -0.018	+0 -0.021	+0 -0.021
または 軸の公差等級 g6	-0.006 -0.017	-0.007 -0.020	-0.007 -0.020

※ せん断ジグとメーカーによる参考試験片を実測して推定したものです。

※ 比較的きついめあいです。上記条件で試験片を準備されても、円筒度の問題や、使用に伴うジグの形状変化等の理由でセットできない可能性があります。

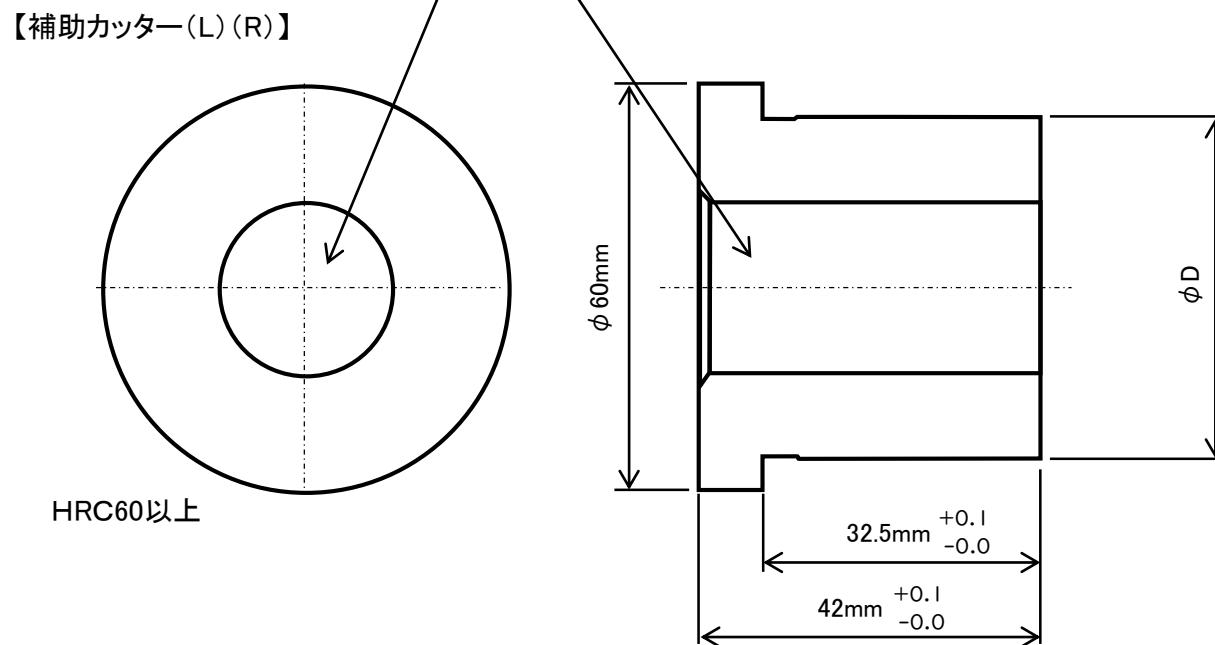
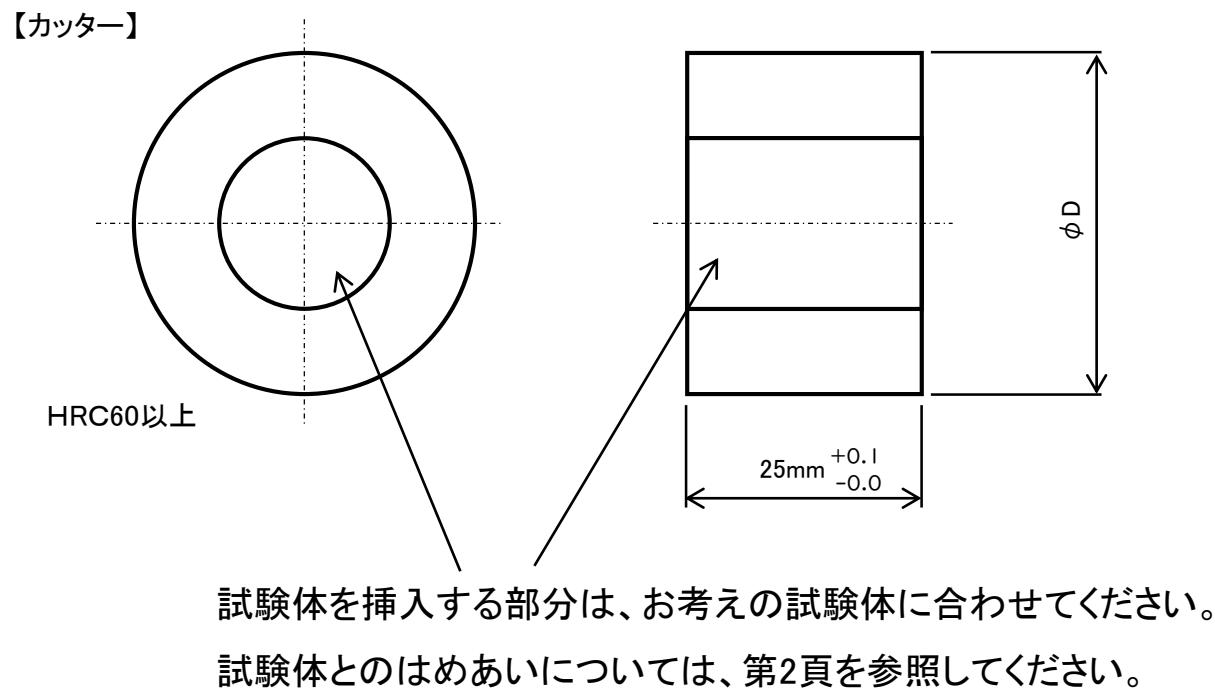
試験片の準備のしやすさの観点から、試験片の直径を

$$\text{試験片直径 } \phi d \begin{matrix} +0.0 \\ -0.1 \end{matrix}$$

として製作されることを推奨します。

ただし、試験片の硬さはHRC40までとさせていただきます。

【カッター等を製作する場合について】



特殊形状試験体の試験をお考えの方は、その試験体に合うカッターと補助カッターをご準備ください。以下の公差情報をご参照ください。

穴と軸(カッター等の直径φD)の公差等級

φD	50
カッターを受ける 穴の公差等級 H7	+0.025 -0
軸の公差等級 h7	+0 -0.025
または 軸の公差等級 g6	-0.009 -0.025

※推定したものです。

※ 比較的きついはめあいです。上記条件でカッター等を準備されても、円筒度の問題や、使用に伴うジグの形状変化等の理由でセットできない可能性があります。

カッター等の準備のしやすさの観点から、カッター等の外径を
 外径 $\phi D \begin{matrix} +0.0 \\ -0.1 \end{matrix}$
 として製作されることを推奨します。